

東京室内装飾事業協同組合 1月8日 新年賀詞交歓会 港区芝の八芳園で開催

東京室内装飾事業協同組合は1月8日午後4時より、東京・港区の八芳園で新年賀詞交歓会を行った。開会に当たり、同組合の富澤宏理事長が挨拶に立ち、要旨次のような挨拶を行った。

昨年は、アベノミクスの効果で景気が上向いたこと、富士山が世界遺産に登録されたこと、2020年のオリンピックが東京開催に決まったことなど、大きな動きがあった。当業界にはまだ景気回復の実感が及んでいないが、オリンピックのための建設等で今後好況になることが期待される。業界は、安値受注の解消、国民に、安全・安心で快適な住空間をお届けするなどの努力をして、繁栄を築き上げて行きたい。

建設産業は技能者不足が深刻で、現場も遅れが目立っている。人材確保・育成は緊急の問題で、インテリア施工技能士の常駐問題では当組合も東京都に陳情を行っている。施工技能が重視される産業構築に組合が結束して尽力したい。インテリア施工の多種多様な問題に対処するため、組合は、小人数で構成される委員会を設置し、それぞれの問題に対処する活動を活発化させている。カーテン、床、壁装等施工研究も取組まれている。消費者に密着し、景気の落込み等にも心配ない産業態勢を確立すべく尽力している。会員各位の力を集め協力・結束して健全に発展し続ける業界づくりを行いたい。

壁装新聞(第407号)より引用